

10/29

Wed

研究者 月岡純平（竜東中）

共同研究者 齋藤博伸
（国立教育政策研究所 教育課程研究センター
教育課程調査官）

3年間積み重ねていくふるさと学習 ～「地域の現地・現物・現実」を 中核に探究を重ねていく授業づくり～

1年次から学級総合の形で始まったふるさと学習。子どもたちは、「この地域がなくなってほしくない、長く続いてほしい」という願いを持ち、探究を進めてきました。私も「地域の魅力や課題」を基に「子どもたちのやりたい」という思いを中心にこれまで授業を進めてきました。

今年度、「学び創造研究会」に立候補し、共同研究者である齋藤先生からご指導をいただくなかで、私は、これまで子どもの主体性ばかりを優先させてしまい、地域の人の想いというものには考えが向いていなかったことに気づくことができました。そこで、①ふるさと学習は人との関わりが大切、②入り口は狭く、子どもたちと何をするのかを明確にすること、③1時間の授業の中で、学習問題→まとめ→次時の見通し→ふりかえりの流れを大事にすることという3つを自分の柱として、地域の中での地域学習をしたいと考えました。

3年生に進級した当初、生徒たちは自分たちは地域を盛り上げるために何ができるのか考えていました。しかし、その過程で、地域おこしに取り組む地域の方からお話を聞く機会があり、「地域おこしに反対をする人がいる」という予想外の言葉に生徒たちの心は揺さぶられ、「せっかくなら、多くの地域の人の受け入れることがしたい」「地域の方の想いをもっと知ったほうがいいのではないか」と考えるようになりました。そこで、地域の方にアンケートを実施し、幅広い年代の約百人から得た回答を、整理・分析しました。その結果、生徒たちは、「人口減少、少子高齢化という地域の課題に対して、自分たちができることを考えたい」という方向性を決め出しました。そして、人口減少対策が背景に含まれている「いいだツーリズムビジョン」という飯田市の観光に関する取組に出会い、地元の「農家民泊」に着目しています。

地元の活動ではありながら、過疎の進む山村、高齢化、農家体験、心の交流等、様々な現実に合わせて出会うことで、生徒たちは考え、関わっていきます。



共同研究者 齋藤先生から

竜東中学校の総合的な学習の時間は、小学校から続く探究的な学びの系統性に基づいた単元づくり・授業づくりをしています。生徒一人一人がこれまでの学習経験を生かしたり地域と関わりを深めたりするとともに、教師の適切な支援による学習活動としていくことで、質の高い探究的な学習を目指しています。地域と自分との関わりを考えながら、地域の現在と未来を繋ぐために、地域住民、市役所職員、NPO 団体職員など多様な人々と対話を重ね、協働的に取り組むことで深い学びを実現しています。



～日程～

- ① 受付 13:10～13:20
- ② 授業公開 13:30～14:15
- ③ 開会行事 14:25～14:35
- ④ 授業研究会 14:35～15:20
- ⑤ 講演会 15:25～16:30
「質の高い探究的な学びを
実現する総合的な学習の時間」
- ⑥ 閉会行事 16:35～16:45